

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	北海道メディカル・スポーツ専門学校
設置者名	学校法人滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配 置 困 難
医療専門課程	柔道整復師学科		316 時間	240 時間	
	鍼灸学科（昼間）		270 時間	240 時間	
	鍼灸師学科		270 時間	240 時間	
文化教養専門課程	スポーツトレーナー学科		180 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校で公開しているホームページ上掲載の職業実践専門課程「別紙様式4」での公開の他、シラバス上で実務経験のある教員について明記し、学生便覧を通じて学生へ告知する。

https://www.hms.ac.jp/common/doc/class_subject.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道メディカル・スポーツ専門学校
設置者名	学校法人滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

理事代表者等の名簿の公開は、学校ホームページにて本申請までに公開をする。説明責任を果たすとともに公正で透明性の高い運営を目指している。

その他の詳細事項については、本学の情報公開規定に則り、情報の開示請求があった場合に関連法令の定めに基づき所定内容を開示することとしている。

https://www.hms.ac.jp/common/doc/school_administrator_list.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	(株)玉川組グループ代表	2018.6.1～ 2021.5.31	地域との連携
非常勤	(株)日本医歯薬研修協会 代表取締役	2018.6.1～ 2021.5.31	適切な情報収集
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道メディカル・スポーツ専門学校
設置者名	学校法人滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.hms.ac.jp/disclose-information/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学習成果の評価については、各授業科目ごとに定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験(追試験・再試験含む)を実施し評価を行っている。試験の方法は試験実施の1週間前までに、その日時・方法を公示し、原則として実質50分間の試験(論文・レポート・実技・実習を含む)を行い、指導目標に対する学生の学習状況を勘案し、同じ基準に基づいて単位認定会議で単位評価評定を行う。</p> <p>単位の評価評定は、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に役立たせると共に、海外への留学や就職等、国際的な評価に対応させることを目的として総合平均(Grade Point Average(以下GPAという))を用いる。また、成績については各個人へのフィードバックと成績通知表の送付及び掲示板への成績掲示により学生へ告知している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。

GPAの算出方法

GPAを算出する計算式は以下のとおりです。(GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。)

【GPAを算出する計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\text{(該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得た GP) の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.hms.ac.jp/disclose-information/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験(追試験・再試験含む)による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。

卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。

卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.hms.ac.jp/disclose-information/>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		専門課程	柔道整復師学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2775 単位時間／123 単 位	1125 時 間	930 時 間	720 時 間		
			2775 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
180人	90人	0人	7人	24人	31人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。

また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知している。

成績評価の基準・方法

客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。

GPAの算出方法

GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）

【GPAを算出する計算式】

$$GPA = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得た GP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$$

実点数 範囲	100点～90 点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不 合格
成績評 価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

卒業・進級の認定基準
<p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。</p> <p>留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>個別面談や補講など、個々に合わせた学修支援を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100.0%)	7人 (28.0%)	15人 (60.0%)	3人 (12.0%)
<p>(主な就職、業界等) 施術所勤務（接骨院、整骨院）</p>			
<p>(就職指導内容) キャリアセンター、担任、教員による相談、指導、面談、企業による説明会</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師資格取得 受験者21名 合格者18名</p>			
<p>(備考)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
96人	5人	5.2%
<p>(中途退学の主な理由) 進路変更のため</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 年1回実施しているサポートアンケートによる学生状況分析、それに基づく面談やスクールカウンセラーと連携した個別面談などを実施している。</p>		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		専門課程	鍼灸学科（昼間）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2415 単位時間／115 単 位	1200 時間	690 時間	525 時間	時間	時間
			2415 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		22人	0人	6人	20人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。

また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知している。

成績評価の基準・方法

客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。

GPAの算出方法

GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）

【GPAを算出する計算式】

$$GPA = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得た GP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$$

実点数 範囲	100点～90 点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不 合格
成績評 価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

卒業・進級の認定基準
<p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。</p> <p>留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>
学修支援等
<p>個人面談の実施、苦手を克服するために、午前や放課後の補習を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100.0%)	2人 (16.7%)	8人 (66.7%)	2人 (16.7%)
(主な就職、業界等) 鍼灸業界			
(就職指導内容) 企業説明会、個人面談、履歴書作成、面接練習、礼状作成等、個々の学生の希望にあわせて行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師国家試験 10名受験 10名合格(合格率 100%)、 きゅう師国家試験 10名受験 9名合格(合格率 90%) JESC 認定カウンセラー資格試験 12名受験 12名合格(合格率 100%)			
(備考)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	1人	2.8%
(中途退学の主な理由) 病気、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年1回実施しているサポートアンケートによる学生状況分析、それに基づく面談やスクールカウンセラーと連携した個別面談などを実施している。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		専門課程	鍼灸師学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2745 単位時間／125 単位	1320 時間	480 時間	945 時間	時間	時間
			2745 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		46人	0人	6人	20人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。

また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知している。

成績評価の基準・方法

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。

GPAの算出方法

GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）

【GPAを算出する計算式】

$$GPA = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得た GP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$$

実点数 範囲	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不 合格
成績評 価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。</p> <p>留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>個人面談の実施、苦手を克服するために、午前や放課後の補習を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>鍼灸業界</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>企業説明会、個人面談、履歴書作成、面接練習、礼状作成等、個々の学生の希望にあわせて行っている。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p>			
<p>(備考)</p> <p>在籍1, 2年生のみ</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	4人	13.3%
<p>(中途退学の主な理由)</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>年1回実施しているサポートアンケートによる学生状況分析、それに基づく面談やスクールカウンセラーと連携した個別面談などを実施している。</p>		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	スポーツトレーナー学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800時間／72単位 単位時間／単位	420 時間	1155 時間	225 時間	時間	時間
			1800 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		61人	人	4人	31人	35人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。

また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知している。

成績評価の基準・方法

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。

GPAの算出方法

GPAを算出する計算式は以下のとおりです。(GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。)

【GPAを算出する計算式】

$$GPA = \frac{\text{(該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得た GP) の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$$

実点数 範囲	100点～90 点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不 合格
成績評 価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計……②

卒業・進級の認定基準

卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試(追試験・再試験含む)による単位を修得した者を対象として、学校長、教務び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。

卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。

留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。

学修支援等

個別相談・指導等の対応

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	13人 (81.2%)	3人 (18.7%)	人 (%)

(主な就職、業界等) 民間スポーツクラブ パーソナルトレーニング施設
(就職指導内容) 個別相談、学内企業説明会実施、学内設置のキャリアセンターとの連携 ※履歴書記入、面接練習（個人・集団）
(主な学修成果（資格・検定等）） スチューデントトレーナー、日本トレーニング指導者、健康運動実践指導者、 ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー
(備考)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56人	10人	17.8%
(中途退学の主な理由) 経済的問題、進路変更、学力不振によるモチベーションの低下・不安		
(中退防止・中退者支援のための取組) 不本意入学や勉強が難しい学生など、希望と異なった進路であった場合、進路アドバイザーやスクールカウンセラーも含め検討し、再入学・転科を実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

円

学科名	入学金	授業料 (年間)	実習費	施設設備 整備費	総合演習 費	合計
柔道整復師学科	200,000	700,000	300,000	120,000	190,000	1,510,000
鍼灸師学科	200,000	700,000	300,000	120,000	190,000	1,510,000
鍼灸学科(昼間)		700,000	300,000	120,000	190,000	1,510,000
スポーツトレーナー学科	100,000	600,000	100,000	70,000	250,000	1,120,000
修学支援(任意記載事項)						

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 公表URLアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法 https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018090501.pdf		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 学校法人滋慶学園北海道メディカル・スポーツ専門学校が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め委員会を組織して、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人社団慶心会 介護付き有料老人ホーム ラ・デュース恵み野	2017年9月～2019年.8月	卒業生代表
学生の保護者	2017年9月～2019年.8月	保護者代表
北海道恵庭南高等学校	2017年9月～2019年.8月	高等学校関係者
NPO 法人まちづくりスポット恵み野	2017年9月～2019年.8月	地域関係者
千歳柔道連盟	2017年9月～2019年.8月	業界関係者
一般社団法人 ノルディーア北海道	2017年9月～2019年.8月	業界関係者
北海道鍼灸マッサージ師会	2017年9月～2019年.8月	業界関係者
学校関係者評価結果の公表方法 公表URLアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法 https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018090402.pdf		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

--

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hms.ac.jp/disclose-information/
--